

世界に誇る

文房具コレクション



2023
1.4(水) - 1.29(日)

Treasures from the Scholar's Study:
Writing Implements from the Tokugawa Collection

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(但し、1月9日(月・祝)は開館、翌10日(火)は休館)
※年末年始(2022年12月16日(金)～2023年1月3日(火))
観覧料 一般1,200円 / 高大生700円 / 小中生500円
※20名様以上の団体は一般1,000円 /
高大生600円 / 小中生400円
※土曜日は高校生以下入館無料
主 催 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・毎日新聞社

徳川文房博

企画展



徳川美術館

THE TOKUGAWA ART MUSEUM
TEL (052)935-6262 FAX (052)935-6261

蓬左文庫

HOSA LIBRARY CITY OF NAGOYA
TEL (052)935-2173 FAX (052)935-2174
〒461-0023 名古屋市東区徳川町

徳川 文房博

中国では、文房(書斎)で用いる硯・筆・墨・紙の四つを「文房四宝」と呼び賞翫していたように、文房具は単なる実用品ではなく、美術工芸品としての鑑賞価値も求められました。高級官僚である文人たちは、自らの文房で詩文を書き、書画を鑑賞し、琴を奏で、香を炷いて心身を清めるとともに、選りすぐりの文房具を飾って愛でて、豊かなひと時を過ごしました。

大名家においても文房具は欠くことはできません。広間などの付書院には主に唐物の文房具が並べられ、執政の空間を飾りました。そこに求められたのは、端溪の硯や、堆朱の装飾筆、あるいは古墨など、貴重で格の高い文房具でした。

本展覧会では、尾張徳川家の伝来品を中心に、大名文化を彩った文房具の魅力に迫ります。



国宝 初音時絵文台・硯箱
靈仙院千代姫(尾張徳川家2代光友正室)所用



龍香御墨「大明宣徳年製」



端溪雲龍硯



玉葵花透影筆洗



挿花図螺鈿軸盆 朱漆銘「大明皇慶年製」



潤原葡萄硯 徳川宗春(尾張徳川家7代)所用



古銅雨龍形筆架 徳川家康・徳川義直(尾張徳川家初代)所用

表面の作品 堆黒屈輪文軸筆／龍香御墨「大明万曆年製」／金銅舟乗唐子形文鎮

※作品は全て徳川美術館蔵

特集展示 徳川家康

第1弾 桐紋散詩経長持 徳川家康(駿府御分物)所用

1年を通して、名品コレクション第1展示室にて徳川家康ゆかりの作品を特別公開します!

2023年1/4(水)～3/26(日)

ほか

オンラインチケット販売

便利でお得な前売り券を右のQRコードよりご購入いただけます。



発売日 12月6日(火)午前10時～

関連企画 (①～③の講座は有料、④は聴講自由) 会場:徳川美術館 講堂

※各種講座・イベントへの申込方法など、詳しくは当館ホームページをご覧ください。

①土曜講座

「文房清玩ー尾張徳川家に伝来した唐墨を中心にー」
日 時 2023年1月7日(土) 午後1時30分～
(開場:午後1時)
講 師 四辻秀紀(特任学芸顧問・名古屋経済大学特別教授)
定 員 60名
(事前申込制ですべてに満席/空席がある場合のみ当日受講可)

②新春企画「徳川美術館で書き初め」

日 時 2023年1月8日(日)
①午前の部:11時～12時(開場:10時30分)
②午後の部:2時～3時(開場:1時30分)
講 師 川崎尚麗氏(毎日書道展審査会員)
定 員 各20名(事前申込制・先着順)

③「筆から楽しむ書」

日 時 2023年1月22日(日)
午後1時30分～3時
(開場:午後1時)
講 師 加藤 裕氏(毎日書道会評議員)
定 員 50名(事前申込制・抽選)
申込締切 12月25日(日)必着

④学芸員の見どころトーク

日 時 2023年1月14日(土)
午後2時～2時30分
(開場:1時30分)
定 員 60名(先着順)

徳川園催事

2023年1月2日(月・振休)～2月19日(日)

寒を遊ぶ
徳川園の冬牡丹



次回展覧会

2023年2月4日(土)～4月2日(日)

特別展
「尾張徳川家の
雛まつり」



企画展

「読み解き
近世の書状」



〒461-0023 名古屋市東区徳川町

- 基幹バス「徳川園新出来」下車徒歩3分
- メーグル「徳川園・徳川美術館・蓬左文庫」下車
- JR中央線「大宮駅」下車南口より徒歩10分